

## 10 やさしい日本語（外国人）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもところがお届けします。

10 最近（さいきん）は街中（まちなか）でも、外国人（がいこくじん）が働く姿（すがた）をよく目（め）にするようになりましたね。福岡市（ふくおかし）にも、令和（れいわ）2年（ねん）7月（がつ）末（まつ）の時点（じてん）でおよそ3万8千人（まんせんにん）の外国人（がいこくじん）が暮（くら）らしています。平成（へいせい）元年（げんねん）と比べると、およそ4倍（ばい）の人数（にんずう）です。

15 そこで、福岡市（ふくおかし）では「外国人（がいこくじん）にも住（す）みやすく、活動（かつどう）しやすいまちづくり」を目標（めざ）し、「やさしい日本語（にほんご）」を使う（つか）ことを呼びかけています。市（し）が作成（さくせい）した冊子（さつし）『使（つか）ってみよう「やさしい日本語（にほんご）」』では、日常生活（にちじょうせい）や災害（さいがい）時に使（つか）える用語集（ようごしゅう）も掲載（けいさい）されています。

20 その中（なか）から具体例（ぐたいれい）を紹介（しょうかい）しながら「やさしい日本語（にほんご）」の主なポイント2つ（せつめい）を説明（せつめい）しましょう。

20 1つめは、「危険（きけん）」を「危（あぶ）ない」、「避難（ひなん）する」を「逃（に）げる」など、分（わ）かりやすい言葉（ことば）に言いかえることです。2つめは、一つ（ひとつ）一つの言葉（ことば）を区切（き）って、ゆっくりはつきり話す（はな）すことです。これ（これ）で、日本語（にほんご）に慣（な）れていない外国人（がいこくじん）にも分（わ）かりやすくなります。

25

そもそも「やさしい日本語」ができたきっかけは、25年前の阪神・淡路大震災でした。こうした災害時でも外国人が適切な行動をとれるよう、情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」伝えるために考えられたのが「やさしい日本語」です。普段の会話でも役に立ちますし、高齢者や子ども、障がいのある方にもわかりやすく伝えることができます。

30

福岡市のある町内会の会長は、こんな体験をしたそうです。町内の公園でサッカーを楽しんでいる、ベトナム人の技能実習生3人に声をかけた時のこと。言いたいことがうまく伝わらない場面もありましたが、「やさしい日本語」を意識して分かりやすい言葉を使うことで、円滑なコミュニケーションに役立つことを実感しました。

35

外国人と接する時には、言葉はもちろん、文化も考え方も異なる相手に対して、思いやりを持って話すことが大切だと考えさせられました。

40

外国人も私たちと同じまちに暮らす市民の一員です。言葉とともに心も相手に寄せて接することが、互いに大切なことではないでしょうか。